

【34用語】

談判（だんぱん）…ある事件の始末や取り決めについて双方が談論し評議すること、かけあい

景況（けいきよう）…ありさま、様子、景気

説論（せつゆ）…説きさとすこと、言い聞かせること

向後（こうご）…この後、今後

旁（かたがた）…あれこれ、色々、あちらこちら、方々

懲戒（ちようかい）…こらしめ、制裁を加えること

【34解説】

明治十年代後半の日本経済は、大蔵卿松方正義の緊縮財政（松方デフレ）と世界恐慌による輸出生糸価格の低落によって激しいデフレとなり、国民生活は破綻に瀕した。なかでも米・繭・生糸など農産物価格の暴落による収入激減と地租の増税は、二重に農民を苦しめる結果となったのである。こうしたなか、負債をかかえ救済を求めた農民による行動が県下各地で頻発することになった。その一つが明治十六年（一八八三）十二月、北甘楽郡小幡村や周辺村々の農民らが起こした事件である。

この県下各郡の人民集合一件記録は、明治十六年に県内各地で起こった農民の騒動に関する文書を編綴したものである。この中にある本文書は、北甘楽郡小幡村の住民三十名余が借金の返済延期を要求するため、同年十二月七日に同村宝泉寺へ集合した事件について、富岡警察署長が県の大書記官へ上申したものである。なお、同じ十二月十一日付けで北甘楽郡長鳥山無可が楫取群馬県令に提出した報告書もあり、当時の具体的な状況を知ることができる。